

Poly-Filter

設置方法と使用書

ポリフィルターは特殊特許を取得した素材を繋ぎ合わせて作られており、化学的に水のろ過を行います。そのろ過は独自の過程となっており塩分を通さず特定の有機物を吸着します。またポリフィルターはどんな場合でも吸着した物質を水中に戻しません。しかし生物濾過にはアンモニアが必要です。ポリフィルターは生物ろ過でろ過し切れずに発生したアンモニアを除去し生物ろ過の補足的な役割も行います。またポリフィルターを使う場合は、その特性から活性炭やイオン交換樹脂は必要ありません。

1. 水槽・テラリウムでのスタートの過程

- 海水水槽の場合:** まず最初に適切なバクテリアの環境をつくるのが重要です。ポリフィルター導入前に通常の方法でシステムを立ち上げて十分に成熟したバクテリアを繁殖させた後に使用して下さい。
- 淡水水槽の場合:** 特別なスタートアップの過程は必要ありません。どんな方法でもいつでもポリフィルターを使用してもかまいません。

【通常の使用ガイド】

- ・ディスク : 45~55L
- ・スタンダード : 140~180L
- ・ブリーダー : 900~1,000L

2. ポリフィルターの設置方法

単独でも重ねてもどちらでもいいので、外部式フィルターの底部や投げ込み式フィルター等に入れてお使い下さい。ポリフィルターをセラミックリングやその他のプレフィルターで覆っても問題ありません。またたくさんのポリフィルターを水が通る場所に設置する事により、一層の効果を期待出来ます。その他ポリフィルターをカットしてメインのろ過器やそれ以外の水の流れが当たる場所に設置することも可能です。

3. ポリフィルターの使用方法

ポリフィルターは汚染物質を吸収した後に設置当初の白色から茶色に変色します。その後こげ茶色になった時、カットしてみて中の方まで同様の状態でしたら交換の時期です。また中がまだ薄い茶色なら、まだ効果がありますので交換の必要はありません。

※ポリフィルターは通常の有機物を取り除いた結果として茶色に変わりますが、薬物や化学物質を吸収した場合は下記のような色に変色します。

青	銅塩	赤	アルミニウム
青緑	銅イオン	黒	重有機物
緑黄色	アンモニア・アンモニウム	黄色	鉛
オレンジ	鉄		

ポリフィルターを設置する前にアンモニア値を測定しその後も定期的にチェックして下さい。アンモニア値が 0.5~1.5PPM もしくはそれ以上に高い場合はポリフィルターの消耗が激しくなります。また水が濁って来たら効果がありませんので交換して下さい。

4. 通常のメンテナンス

一旦、ポリフィルターを設置して適切に立ち上がってうまく稼働している水槽では、ポリフィルターに特に注意を払う必要はありません。自動的に有機物・無機物の危険物質を長期間間取り除いてくれます。硝酸塩、リン酸等のレベルを低くして行き、水の透明度は急速に改善されます。また浮遊粒子状物質、および他の可溶性有機物もポリフィルターで取り除かれます。その他ポリフィルターによって危険なレベルに近づくアンモニア、亜硝酸を取り除く事から表面ガス交換が行われ酸素使用量が減ることで二酸化炭素が低くなり酸素レベルが増加します。これらの効果により浸透圧のショックを考慮すれば、有機物の危険無しで魚や無脊椎を水槽に直ぐに足すことが出来ます。またビタミンや微量元素を加える場合は 24 時間ポリフィルターをフィルターから取り除いて下さい。

5. 投薬の除去

硫酸銅、ホルマリン、硫酸キニーネ、マラカイトグリーン等の薬品を投与すると長期間水槽内に残存し毒性が残留します。ポリフィルターはこれらの治療薬を微量元素に影響を与えず取り除くことが可能です。ただしこれらの薬を使おうとする時にはまず投薬前に必ずポリフィルターを取り除いて下さい。そして治療完了後に複数のポリフィルターをフィルター等に入れて頂くと残った毒性の薬を全て吸着してくれます。そして 3 日後にポリフィルターを取り除き新しいものと交換して下さい。使用したポリフィルターは次の治療の際に再使用可能ですが投薬の処理に使用したポリフィルターを通常のろ材としては決して使わないで下さい。また海水に硫酸銅ベースの投薬を行った後に重ねたポリフィルターを外部フィルター等に入れて使用した場合、72 時間後には無脊椎を水槽に入れる状態まで吸着を行う事が出来ません。しかし特に PH が下がっていた場合には岩や砂利やサンゴが銅を一旦吸収してその後に水槽内に戻ってしまう事ありますので 72 時間後に銅を吸収したポリフィルターを新しいものに交換することをお勧めします。そしてポリフィルターを継続的に維持して使用を行う事で水槽を良好な状態に保つ事ができます。